

第5・6学年 国語科学習指導案

5年生 男子3名 女子7名 計10名
6年生 男子2名 女子3名 計5名
指導者 福永 秀樹

1 単元 読書の世界を広げよう
教材名 「千年の釘にいどむ」「本は友達」(光村5年上)

2 単元について

(1) 単元設定の理由

これまでに児童は、「新しい友達(物語文)」の学習を通して、登場人物の心情の変化に沿って読み、自分なりの感想を持つことを学習してきた。また、「サクラソウとトラマルハナバチ(説明文)」では、文章の要旨を捉えながら読み、筆者の考えを踏まえながら自分の考えを持つ学習をしてきた。本単元では「さまざまなジャンルの本を読み、内容・感想を交流する読書発表会を通して、読書の世界を広げ深める」を主目標とする。

本教材は、四国のかじ職人・白鷹幸伯さんが、古代の釘を再現する中で解明していった、当時の釘の見事さを説明しながら釘作りに挑む職人の生き方や仕事にける思いを生き生きと描いた文章である。題材のおもしろさという点でも、短く、畳みかけるような文章が生み出す緊迫感においても、文章構成の明確さという点でも、児童の興味を引く作品といえる。

そこで、指導にあたっては、本文に書かれている様々な表現や指示語が何を指し示しているかに着目させるとともに、事実に基づいて、自分の感じたことや考えたことをまとめさせていきたい。また、児童がこれまでに学習したり、ふだん読んでいたりしている児童読み物とひと味もふた味も違うこのような文章をきっかけにして、視野を広げ、新たな読書生活への入り口としたい。

(2) 単元の系統

学年間の系統

学年	教材名	単元名
1	「ずうと、ずっと、大すぎだよ」	本とともだちになろう
2	「スイミー」	本とともだちになろう
3	「三年とうげ」	本とともだちになろう
4	「白いぼうし」	本と友達になろう
5	「千年の釘にいどむ」【本単元】	読書の世界を広げよう
6	「森へ」	読書の世界を深めよう

学年内の系統

月	教材名	単元名
4月	「新しい友達」	本に親しみ、人間をとらえよう
5月	「サクラソウとトラマルハナバチ」「千年の釘にいどむ」【本単元】	まとまりに気をつけて読もう 読書の世界を広げよう
10月	「わらぐつの中の神様」	人物の考え方や生き方をとらえよう
3月	「大造じいさんとガン」	学習したことを生かして

(3) 児童の実態

児童の実態について5つの観点から見ると次のようになる。

関心・意欲・態度

本学級の児童は、意欲的に学習に取り組むことができる。しかし、読み取りの力や表現力に個人差が大きく、課題解決の時間にも個人差がある。また、自分の答えに自信がもてずにまとめるのに時間がかかったり、発表に対して消極的になったりし、一部の児童の意見で話し合いが進んでいく場合が多い。

読むこと

物語文の学習において、登場人物の言動や場面の様子を捉えながら音読の工夫などに取り組んできており、物語の概要はよく理解している。また、自分の考えを書こうとする姿勢は出てきているが、読み取ったことを自分なりの言葉で表現したり、大切な言葉を自分で見つける力はまだ十分とは言えない。

説明文の学習においても、文意を読み取る事はできるものの、大事な言葉を見つけ、要約する事は苦手である。

音読においては、既習漢字の定着に差があるため、すらすらと読めない児童もいる。読み仮名を書いたり、家庭での音読練習にも取り組んだりしながら努力しているところである。

話すこと・聞くこと

発表話型をもとにして、自分の意見を発表したり、友達の発表を聞いたりすることができる。

書くこと

句読点や段落などに気をつけて書くことが、まだまだ不十分であり、書き間違いなども多い。

言語理解

文章の中で既習漢字を使って書くことが難しく、児童の意識も低い。さらに、文字を丁寧に書くことが課題である。

1 単元 読書の世界を深めよう
教材名 「森へ」「本は友達」(光村6年上)

2 単元について

(1) 単元設定の理由

これまでに児童は、「カレーライス(物語文)」の学習を通して、登場人物の心情を叙述に即して読み、語り手を変更することによって見えないことに想像をめぐらし、文章を書くことを学習してきた。また、「生き物はつながりの中に(説明文)」では、文章の構成や表現から要旨をとらえ、筆者の考えについて自分なりの考えを持つ学習をしてきた。本単元では、「さまざまなジャンルの本を読み、その特徴などを書き・話す読書発表会を通して、読書の世界を広げ深める」を主目標とする。

本教材は、筆者自身が自然の中に身を置いて感じたり考えたりしたことを、写真と文章で構成した作品である。筆者が感性を研ぎ澄まし、森と共生し、豊かな心で書かれた文章は、児童のもつ「生きる力」に訴えかけ、筆者の目を通して示された森に息づく美しいもの(命)は、児童の共感を呼び深く心の中にしみ通っていくにちがいない。

そこで、指導にあたっては、感性豊かな言葉の表現や擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法に着目させ、筆者の心の動きや情景を豊かに想像させながら、自分の考えをまとめさせたい。また、学習を通して、作者の描いた世界に出会う喜びに触れさせ、読書への発展を意識した指導を心がけたい。

(2) 単元の系統

学年間の系統

学年	教材名	単元名
1	「ずうと、ずっと、大すぎだよ」	本とともだちになろう
2	「スイミー」	本とともだちになろう
3	「三年とうげ」	本とともだちになろう
4	「白いぼうし」	本と友達になろう
5	「千年の釘にいどむ」	読書の世界を広げよう
6	「森へ」【本単元】	読書の世界を深めよう

学年内の系統

月	教材名	単元名
4月	「カレーライス」	本に親しみ、自分と対話しよう
5月	「生き物はつながりの中に」「森へ」【本単元】	文章を読んで、自分の考えをもとう 読書の世界を深めよう
10月	「やまなし」	表現を味わい、豊かに想像しよう
3月	「海の命」「今、君たちに伝えたいこと」	学習したことを生かして

(3) 児童の実態

児童の実態について5つの観点から見ると次のようになる。

関心・意欲・態度

本学級の児童は、個人差はあるものの、意欲的に学習に取り組むことができる。しかし、少人数であるために意見や考えの深まりが乏しく、友達の意見に流されることが多い。また、話し合いの場面では、自分の考えや意見を自信を持って発表できる児童が少ないため、なかなか話し合いが進まない事がある。

読むこと

物語文の学習において、登場人物の視点に立ち、気持ちを読み取ることができる。しかし、自分の気持ちに置き換えて考える事が苦手であり、自分の気持ちを素直に表すことができない。

説明文の学習においては、文章中から大事な言葉を見つけ出すことができ、文章中の言葉をつなぎ合わせ、要点をまとめることができる。

音読においては、個人差があり、漢字の読み方でつまずきが見られる子供もいるが、家庭での音読練習に意欲的に取り組み、一字一字しっかりと読める児童が多くなってきている。

話すこと・聞くこと

自分の考えをしっかりと大きな声で発表することができる。また、友達の発表もしっかりと最後まで聞くことができる。

書くこと

文章の内容をよく考えて、要点や要旨などをしっかりとまとめながら書くことができる。句読点の使い方には心がけているものの、段落の活用は難しい。

言語理解

書写では文字を丁寧に書くことはできるが、ノートに文字を書くときは乱雑になりがちである。さらに、既習漢字を使って文章を書こうとする意識が低い。

また、アンケートの結果は次の通りである。



国語については、漢字が好きという意見が多いが、漢字を苦手としている児童もいる。本を読むことが好きな児童が大半であるが、文字を読むことを苦手としている児童もいる。学級の実態においても漢字を読むことができるが、漢字を書けない児童が多い。そこで、漢字に対する理解を深めながら、学習を進めていきたい。

本を読むことに対しては、文字に対する苦手意識からか絵本や漫画的な要素を持つ本を好んで読んでいる。それに対して好きな本やこれから読みたい本においては、多岐にわたって興味を抱いている。この思いを生かし、今までに読んだことのないさまざまなジャンルの本に興味を抱かせ、読書発表会に積極的に取り組ませていきたい。

(4) 指導上の留意点

ア 「つかむ」過程では、単元全体の学習の見通しとして学期末に行う読書発表会への意欲を持たせたい。

次に、教材として扱う「千年の釘に挑む」を読み、釘作りに挑む職人生き方や仕事にける思いを感じ取らせたい。また、心に残る場面や感動した場面などを積極的に取り入れさせた初発の感想を出し合うことにより、これからの学習への意欲を高めたい。また、学習を効率的に進めるために新出漢字をしっかりと押さえ、難語句の意味なども理解させていきたい。

イ 「みとおす」過程では、学習の流れをつかませるために児童の意見を尊重し、児童と共に初発の感想をもとに学習課題を決め、学習計画を立てていきたい。また、今後の学習を効率的に進めるために古代の釘と現代の釘の違いを探し、線を引くことで古代の釘と現代の釘の違いに気づかせたい。

ウ 「しらべる」過程では、指示語が何を指し示しているか理解させたい。また、古代の職人さんと白鷹さんの釘作りに対する思いや工夫を読み取らせ、古代の釘と現代の釘の違いに気づき、自分の感じ方や考え方を明確にしなが感想をまとめさせていきたい。

エ 「ふかめる」過程では、これまでの学習の中の話し合いを通して深めてきた感想を生かして、初めの考えや、友達の考えを取り入れるなどして自分の考えを深めさせたい。

オ 「まとめる」過程では、今までに読んだことのないさまざまなジャンルの本を紹介することで興味を抱かせ、積極的に読書に取り組ませたい。その後、読んだ本の感想を自分の考えが明確に伝わるように書かせ、感想などを友達と交流することで自分の考えをさらに深めさせたい。また、さまざまなジャンルの本に触れることで読書の楽しさを味わわせたい。

今回の単元の指導は、「まとめる」課程の「読書発表会の計画を立てる。【9/12】」までとする。今後、学校や家庭で読書の時間を設け、読書発表会への意欲を持って読書に取り組めるようにさせたい。学期末に読書発表会を行い、夏休み期間中の読書への意欲を高めたい。

3 単元の目標

読書発表会に進んで参加し、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、読書の幅を広げることができる。

【関心・意欲・態度】

叙述に即して、内容を読み取り自分の感じ方や考え方を明確にして感想をまとめることができる。【読むこと】

自分の感じたことや考えたことを聞き手によく伝えるように工夫して話し、相手の話したいことを考えながら聞くことができる。【話すこと・聞くこと】

筆者や登場人物の意見や感想を考え、自分の意見を書くことができる。【書くこと】

指示語や、文章に出てくる漢字や語句の意味を正確に理解することができる。【言語理解】

また、アンケートの結果は次の通りである。



国語が好きですか、本を読むのが好きですか、という質問に対して、文字に対する苦手意識からか嫌いと答える児童が見られる。そのためか、ポストテスト（漢字テスト）などでも間違いが多く、日記や作文などでも漢字は使わず、ひながたで書くことが多い。文字に対する苦手意識をなくすためにも新出漢字を習得させ、言語の意味や様々な表現技法なども押さえたい。

本を読むことに対しては、成長の発達によって様々な物に興味を示すようになったためか、今まで読んだ本や好きな本も多岐にわたっている。また、個人差はあるものの、シリーズ物や長編物を読む児童が増えてきている。この思いを大切に、今までに読んだ本よりも量や内容の多い長編物に興味を抱かせ、読書発表会に向けての意欲へとつなげたい。

(4) 指導上の留意点

ア 「つかむ」過程では、単元全体の学習の見通しとして学期末に行う読書発表会への意欲を持たせたい。

次に、教材として扱う「森へ」を読み、森全体を一つの大きな生き物として捉えていることを着目させたい。心に残る場面や写真の印象などを積極的に取り入れさせた初発の感想を出し合うことにより、これからの学習への意欲を持たせたい。また、学習を効率的に進めるために新出漢字をしっかりと押さえ、難語句の意味なども理解させていきたい。

イ 「みとおす」過程では、学習の流れをつかませるために児童の意見を尊重し、児童と共に初発の感想をもとに学習課題を決め、学習計画を立てていきたい。また、今後の学習を効率的に進めるために擬態語、擬声語、比喻、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を探し、色分けをすることで様々な表現技法が森の様子を想像豊かにさせていることに気づかせたい。

ウ 「しらべる」過程では、擬態語、擬声語、比喻、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を理解させたい。また、それらの表現技法が筆者の心の動きや森の様子を豊かに想像させていることに気づかせ、自分なりの考えをまとめさせていきたい。

エ 「ふかめる」過程では、これまでの学習の中の話し合いを通して深めてきた感想を生かして、初めの考えや、友達の考えを取り入れるなどして自分の考えを深めさせたい。

オ 「まとめる」過程では、今までに読んだ本よりも量や内容の多い長編物を紹介することで興味を抱かせ、積極的に読書に取り組ませたい。その後、読んだ本の感想を自分の考えが明確に伝わるように書かせたい。また、感想などを友達と交流することで自分の考えをさらに深めさせたい。また、今までに読んだことのない長編物の本に触れることで読書の楽しさを味わわせたい。

今回の単元の指導は、「まとめる」課程の「読書発表会の計画を立てる。【9/12】」までとする。今後、学校や家庭で読書の時間を設け、読書発表会への意欲を持って読書に取り組めるようにさせたい。学期末に読書発表会を行い、夏休み期間中の読書への意欲を高めたい。

3 単元の目標

読書発表会に進んで参加し、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、読書の幅を広げることができる。

【関心・意欲・態度】

感覚豊かな表現や工夫された表現に着目して筆者の心の動きや情景を豊かに想像しながら読み、自分の考えをまとめることができる。【読むこと】

自分の感じたことや考えたこと、想像したことを聞き手によく伝えるように工夫して話し、相手の話したいことを考えながら聞くことができる。【話すこと・聞くこと】

自分の感じ方や考え方を明確にして文章の組み立てを考えて感想やメモを書くことができる。【書くこと】

擬態語、擬声語、比喻、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を理解することができる。【言語理解】

4 指導計画(全12時間)

過程	時間	主な学習活動	教師の支援と評価	
つかむ		単元全体の学習の流れをつかむ。 「千年の釘に挑む」を読み、心に残る場面や感動した場面などを話し合う。 新出漢字や難語句を確かめる。	読書発表会への見通しを持たせる。 心に残る場面や感動した場面など、自由に感想を書かせる。 漢字は書き順に気をつけて書かせ、難語句は辞書を引かせる。	読書発表会に興味を持ち、「千年の釘に挑む」に関心を持って読み進め、意欲的に感想を書くことができたか。 新出漢字や難語句の意味を理解できたか。
みとおす		学習計画を立てる。 古代の釘と現代の釘の違いを探す。	初発の感想をもとに学習計画を立てさせる。 古代の釘と現代の釘の違いを線を引き分けさせる。	学習計画を立て、学習の見通しをもつことができたか。 古代の釘と現代の釘の違いを見つけることができたか。
しらべる・ふかめる		第1のまとめ 「釘作りを任された白鷹さん」の気持ちを読み取る。	古代建築のすばらしさを理解し、白鷹さんはどのような気持ちで釘作り挑んだか考えさせる。	指示語について理解し、古代の職人さんと白鷹さんの釘作りに対する思いや工夫を読み取り、自分の感じ方や考え方を明確にして感想をまとめることができたか。
	本時	第2のまとめ 「古代の釘のさびにくさ(材質の違い)」を読み取る。	古代の釘と現代の釘の違いを読み取らせる。	
		第3のまとめ 「古代の釘のぬげにくさ(形の違い)」を読み取る。	古代の釘と現代の釘の違いを読み取らせる。	
		第4のまとめ 「古代の釘のかたさ」を読み取る。	古代の釘と現代の釘の違いを読み取らせる。	
		第5のまとめ 「白鷹さんの願い」を読み取る。 これまでの学習の中の話し合いで深まった自分の考えを中心に感想を書く。	白鷹さんの釘作りに対する熱意を読み取らせる。 友達と感想を伝え合い、自分の考えを深めさせる。	話し合いを通して感想を深め、初めの考えと、友達の考えを入れるなどしてまとめることができたか。
まとめる		読書発表会の計画を立てる。	読書発表会の方法や計画を話し合い、読書発表会への意欲を高めさせる。	読書発表会に対して、興味や意欲を持つ事ができたか。
		学期末まで、読書の時間を設け、さまざまなジャンルの本を読ませる。 読んだ本の感想を書く。	自分の感じた事や考えた事を中心に書かせる。	感じた事や考えた事を中心にして感想を書くことができたか。
		読書発表会のためのメモや必要なものを作らせる。 読書発表会を開く。	話の中心や組み立てを考えてメモを作らせる。 感想を交流し考えを深めさせる。	目的を考えて、効果的なメモ作りができたか。 友達の感想や意見を聞き、自分の考えを深めることができたか。

4 指導計画(全12時間)

過程	時間	主な学習活動	教師の支援と評価	
つかむ		単元全体の学習の流れをつかむ。 「森へ」を読み、心に残る場面や写真の印象などを話し合う。 新出漢字や難語句を確かめる。	読書発表会への見通しを持たせる。 心に残る場面や写真の印象など、自由に感想を書かせる。 漢字は書き順に気をつけて書かせ、難語句は辞書を引かせる。	読書発表会に興味を持ち、「森へ」に関心を持って読み進め、意欲的に感想を書くことができたか。 新出漢字や語句の意味を理解できたか。
みとおす		学習計画を立てる。 擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を探す。	初発の感想をもとに学習計画を立てさせる。 擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を色分けさせる。	学習計画を立て、学習の見通しをもつことができたか。 擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を見つけることができたか。
しらべる・ふかめる		第1の場面 「アラスカの世界のようす」を読み取る。	様々な言語表現に気づかせる。 工夫された表現や写真から森の様子や生き物の様子を想像させる。 筆者の心の動きと場面の情景を想像しながら読ませる。	擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法を理解し、筆者の心の動きや森の様子を自分なりに想像して考えをまとめることができたか。
	本時	第2の場面 「ザトウクジラとの出会い」を読み取る。		
		第3の場面 「クマの道と植物の生き方」を読み取る。		
		第4の場面 「川を上るサケとクマ」を読み取る。		
		第5の場面 「大木の物語」を読み取る。 「森へ」を読んで感じたことをもとに、自分の考えをまとめる。	友達の発表を聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見つけさせ、意見交換をさせる。	友達の考えと自分の考えを比べながら聞くことで自分の考えをさらに深めることができたか。
まとめる		読書発表会の計画を立てる。	読書発表会の方法や計画を話し合い、読書発表会への意欲を高めさせる。	読書発表会に対して興味や意欲を持つ事ができたか。
		学期末まで、読書の時間を設け、今までに読んだ本よりも量や内容の多い長編物の本を読ませる。 読んだ本の感想を書く。	自分の感じた事や考えた事を中心に書かせる。	感じた事や考えた事を中心にして感想を書くことができたか。
		読書発表会のためのメモや必要なものを作らせる。 読書発表会を開く。	話の中心や組み立てを考えてメモを作らせる。 感想を交流し考えを深めさせる。	目的を考えて、効果的なメモ作りができたか。 友達の感想や意見を聞き、自分の考えを深めることができたか。

5. 本時(4/12)

- (1) 目標
積極的に課題に取り組み、進んで発表することができる。
【関心・意欲・態度】
古代の釘と現代の釘の違いに気づくことができる。
【読むこと】
自分の感想を聞き手によく伝わるように話し、相手の話したいことを考えながら聞くことができる。
【話すこと・聞くこと】
古代の釘作りと現代の釘作りの違いから、驚いたことをもとに感想を書くことができる。
【書くこと】
指示語が何を指し示しているか見つけることができる。
【言語理解】

- (2) 指導上の留意点
「つかむ」過程では、漢字のポストテストを行い、漢字の定着を図りたい。次に、めあてを書き、本時の学習の場面を音読することで学習場面をつかませたい。
「みとおす」過程では、前時の時間を振り返り、古代の釘には様々な工夫をこらしてある事を思い出させ、本時の学習への意欲を高めさせたい。また、学習課題をとらえさせ、読みの視点を確認することによって課題解決への見通しを持たせたい。
「しらべる」過程では、指示語に注目させ、何を指し示しているか押さえていきたい。それらをもとに、古代の釘と現代の釘の違いをつかませたい。
「ふかめる」過程では、自分の意見を明確にしなが、感想を書かせたい。
「まとめる」過程では、古代の釘へのおどろきや白鷹さんの釘作りに対する熱意が表れるように音読をさせたい。
最後に、自己評価をすることで、本時間の学習を振り返り、次時の学習への意欲を高めたい。

(3) 実際

教師の支援	学習活動	過程	時間
ガイド学習の進め方を参考にして自分たちで進める。課題をしっかりと把握させるために、学習のめあてを一斉読みさせる。 学習内容が分かるように正しく発音させる。	1 ポストテストをする。 2 本時の学習のめあてをつかむ。「釘のさびにくさ」を読んで分かったことをもとに感想を書く。 3 本時の学習場面を音読する。(一文読み)	つかむ 6分	5分 6分
前時の学習の進め方や学習内容について想起させる。課題解決をするために、読みの視点を考えさせる。ワークシートを中心に課題解決を図らせる。自分の感想の中心になる部分を教科書から視写させる。	4 前時までの場面を振り返る。 5 課題解決への見通しをもつ。指示語が何を指し示しているか考える。古代の釘と現代の釘の違いをつかむ。自分の意見を明確にしなが、感想を書く。	みとおす 8分	6分 5分
指示語が何を示しているかを理解させる。鉄の純度の違いを読み取らせる。 自分の意見を伝えるために、ホワイトボードに感想を書かせる。友達の発表を聞くことで、自分の考えを深めさせる。	6 課題を解決する。指示語が何を指し示しているか考える。現代の釘と古代の釘の違いをつかむ。 7 調べたことをもとに話し合う。自分の意見を明確にしなが、書いた感想を発表する。	しらべる・ふかめる 21分	6分 10分
古代の釘へのおどろきや、白鷹さんの釘作りに対する熱意を考えなが、音読させる。 自己評価をすることで本時の学習を振り返らせる。お互いの学習の振り返りの場とし、友達の頑張りを気づかせる。	8 本時のまとめをする。古代の釘へのおどろきや、白鷹さんの工夫や思いを考えなが、音読をする。(指名読み) 9 自己評価をして学習を振り返る。 10 6年生と一緒に自己評価を発表する。 11 次時の学習を確認する。	まとめる 10分	5分 7分

- (4) 評価
積極的に課題に取り組み、進んで発表することができたか。
古代の釘と現代の釘の違いに気づくことができたか。
自分の感想を聞き手によく伝わるように話し、相手の話したいことを考えながら聞くことができたか。
古代の釘作りと現代の釘作りの違いから、驚いたことをもとに感想を書くことができたか。
指示語が何を指し示しているか見つけることができたか。

5. 本時(4/12)

- (1) 目標
積極的に課題に取り組み、進んで発表することができる。
【関心・意欲・態度】
筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読み取り、自分の感想をまとめ話し合うことができる。
【読むこと】
自分の選んだ理由を聞き手によく伝わるように話し、相手の選んだ理由を新たな考えとして聞くことができる。
【話すこと・聞くこと】
素敵だと思った表現に対し、自分が選んだ理由を明確に書くことができる。
【書くこと】
文中の擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの表現技法を見つめることができる。
【言語理解】

- (2) 指導上の留意点
「つかむ」過程では、前時の時間を振り返り、筆者と一緒に森を歩いていく気持ちを起こさせ、本時の学習への意欲を高めさせたい。
「みとおす」過程では、学習課題をとらえさせ、読みの視点を確認することによって課題解決への見通しを持たせたい。
「しらべる」過程では、文中に使われている擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法の理解を深め、これらを用いることで、森へのイメージを豊かに伝えていることに気づかせたい。
「ふかめる」過程では、自分が気づかなかったことを、友達の発表から気づかせるようにさせたい。
「まとめる」過程では、さまざまな表現に着目することで、豊かな音読ができるようにさせたい。
また、漢字のポストテストを行い、漢字の定着を図りたい。
最後に、自己評価をすることで、本時間の学習を振り返り、次時の学習への意欲を高めたい。

(3) 実際

教師の支援	学習活動	過程	時間
前時までの場面を振り返る。 本時の学習の進め方を確認する。 本時の学習のめあてをつかむ。「ザトウクジラとの出会い」の中で素敵だと思う表現を探そう。	1 前時までの場面を振り返る。 2 本時の学習の進め方を確認する。 3 本時の学習のめあてをつかむ。「ザトウクジラとの出会い」の中で素敵だと思う表現を探そう。	つかむ 4分	5分 4分
課題解決への見通しをもつ。表現されている擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法について考える。森の様子や筆者の心の動きについて考える。自分が素敵だと思う表現を探し、表現から感じたことを発表する。	4 課題解決への見通しをもつ。表現されている擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法について考える。森の様子や筆者の心の動きについて考える。自分が素敵だと思う表現を探し、表現から感じたことを発表する。	みとおす 5分	6分 5分
学習内容が分かるように正しく発音させる。 文中に使われている様々な言語表現をもとに自然の様子の想像を深めさせる。	5 本時の学習場面を音読する。(一文読み) 6 課題を解決する。表現されている擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの様々な表現技法について考える。森の様子や筆者の心の動きについて考える。 7 調べたことをもとに話し合う。自分が素敵だと思う表現を探し、表現から感じたことを発表する。	しらべる・ふかめる 28分	6分 10分
自己評価をすることで本時の学習を振り返らせる。お互いの学習の振り返りの場とし、友達の頑張りを気づかせる。	8 本時のまとめをする。様々な表現に気がつけて音読をする。(指名読み) 9 ポストテストをする。 10 自己評価をして学習を振り返る。 11 5年生と一緒に自己評価を発表する。 12 次時の学習を確認する。	まとめる 8分	5分 7分

- (4) 評価
積極的に課題に取り組み、進んで発表することができたか。
筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読み取り、自分の感想をまとめ話し合うことができたか。
自分の選んだ理由を聞き手によく伝わるように話し、相手の選んだ理由を新たな考えとして聞くことができたか。
素敵だと思った表現に対し、自分が選んだ理由を明確に書くことができたか。
文中の擬態語、擬声語、比喩、倒置法、擬人化などの表現技法を見つめることができたか。

千年の釘にいどむ

名前

古代の釘のさびにくさ(第二のまとまり)

- 一指じ語の指している言葉(文章)を考えよう。
- 五十二ページ八行目(これでもさしつかえない。)

五十三ページ三行目(こうして作られた鉄は、)

- 二 古代の釘と現代の釘の同じところは何か。(教科書の言葉で書きましよう。)

材料が

- 三 古代の釘と現在の釘の違いを二つ書きましよう。

古代の釘	現代の釘

- 四 「現代の方法で作られた鉄を使っては、求めている釘を作ることはできないと思った」白鷹さんは何をしましたか。(教科書の言葉で書きましよう。)

- 五 「古代の釘のさびにくさ」を読んで、わかったことをもとに感想を書こう。

感想



森へ

名前

ザトウグジラとの出会い(第二の場面)

一 表現の工夫を考えよう

擬態語・擬声語(音の正体を探そう。)

聞こえた音		音の正体	

比喩(他の物にたとえられた表現を探そう。)

どう置法(言葉の順序がいかかわってる所を探そう。)

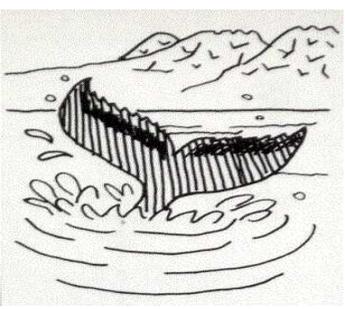
擬人化(人にたとえている表現を探そう。)

二 ザトウグジラを見て、「ぼく」はどう思いましたか。(教科書の言葉で書きましよう。)

三 素敵だと思う表現を探して、選んだ理由を書きましよう。

素敵だと思う表現(教科書から書き写す。)

選んだ理由



「読書の世界を広げよう」

時
月
日

ふりかえること

つかむ		「千年の釘にいどむ」についての感想を書こう。
みとおす		学習計画を立てよう。
しらべる		「釘作りを任された白鷹さん」を読んでわかったことをもとに感想を書こう。
ふかめる		「古代の釘のさびにくさ」を読んでわかったことをもとに感想を書こう。
		「古代の釘のぬけにくさ」を読んでわかったことをもとに感想を書こう。
		「古代の釘のかたさ」を読んでおどろいたことをもとに感想を書こう。
		「白鷹さんの願い」を読んで白鷹さんの考えをもとに感想を書こう。
		「千年の釘にいどむ」でわかったことをもとに感想を書こう。
		読書発表会の計画を立てよう。
		読んだ本の感想を書こう。
		読書発表会の準備をしよう。
		読書発表会を開こう。
まとめる		

